

yamaguchi.cycling.federation



Official partnership program guidance

2026-2027



山口県自転車競技連盟 とは

山口県下における自転車競技の統括団体として、自転車競技の健全な普及と体育文化の向上に寄与することを目的としています。

主な活動内容は以下のとおりです。

- ・山口県内の自転車競技に関する競技力の向上
- ・指導者の養成・研究および各種行事の開催
- ・自転車競技大会の開催
- ・各種自転車競技大会への選手派遣



2011年に開催された第66回国民体育大会、いわゆる「山口国体」の自転車競技会を契機として、山口県自転車競技連盟では、自転車競技の普及、競技役員の養成、競技者の育成・強化に継続して取り組んでいます。

現在では、国民体育大会から国民スポーツ大会へと名称が改められるなど、スポーツを取り巻く環境も変化しています。競技力の向上だけでなく、子どもからシニア世代までが安全に自転車に親しみ、健康づくりや地域交流につながる環境づくりが、これまで以上に重要となっています。

具体的には、自転車愛好者を対象としたイベントの開催、ジュニア競技者の健全な育成、シニア層の健康増進、交通安全意識の向上などを通じて、県内全体のサイクルスポーツの裾野拡大と競技レベルの向上を目指しています。

また、県内外から競技者や観戦者を迎え入れる大会・イベントの開催を通じて、交流人口の拡大、観光振興、地域経済への波及効果を生み出し、参加者・観戦者・地域の皆さまから支持される地域活性化イベントの創出に努めています。

地域密着型サイクルスポーツクラブ

地域密着型サイクルスポーツクラブについて

地方における自転車競技の普及と競技力向上を図るためには、地域に根ざした活動環境の整備と、継続的な選手育成の仕組みづくりが重要です。

山口県では、2011年の「おいでませ！山口国体」の開催を契機に、自転車競技の普及や競技役員の養成、競技者の育成・強化に取り組んできました。また、2014年以降はJBCF(一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟)の大会を県内各地で開催し、2023年には国際ロードレース大会も開催されるなど、全国レベル・国際レベルの競技環境が整いつつあります。

さらに、2016年に発足した「サイクル県やまぐちプロジェクト」とも連携し、行政、地域、競技団体が一体となって、サイクルスポーツの普及、地元選手の育成、競技環境の充実に取り組んでいます。こうした地域の強みを活かし、山口県自転車競技連盟では、地域に根ざしたクラブチームの運営を通じて、競技者の裾野拡大、競技力の向上、そしてサイクルスポーツ文化の定着に努めています。

- ・JBCF(全日本実業団自転車競技連盟)が主催する「Jエリートツアー」への参戦
- ・サイクルスポーツイベントの開催や運営協力
- ・「サイクル県やまぐちプロジェクト」との連携による競技環境の整備
- ・ジュニア世代選手の発掘・育成
- ・県内自転車指導者の養成プロチームや海外遠征への 選手の推薦・斡旋



JBCF Team =セービング・山口県自転車競技連盟=

代 表 : 棟久 明博
 G M : 田中 謙治
 事 務 局 長 : 森岡 智之
 監 事 : 志賀 孝治
 監 督 : 杉山 文崇
 キ ャ プ テ ン : 平井 貴志



2007年に実業団クラブチーム「エスペランス・スタージュ」として活動を開始し、全国各地で開催される実業団大会に参戦してきました。その後、2016年に「フィールズ・オン・アース山口」へチーム名を変更し、2017年からは「山口県自転車競技連盟」として活動を継続しています。現在は、山口県内の選手を中心にチームを構成し、JBCF主催の「エリートツアー」をはじめとする各種レースに参戦しています。また、本拠地である山口県内では、地域スポーツの振興、サイクルスポーツの普及、競技者の育成・強化を目的に、各種サイクルイベントの開催・運営にも協力しています。

さらに、意欲ある選手には、より高いレベルでの実戦経験を積む機会として、海外遠征等への挑戦も支援しています。

今後も、九州・中国地方から全国へ、そして世界へ羽ばたく自転車競技選手の育成を目指し、「サイクルスポーツの普及」「選手の育成」「競技力の向上」に一貫して取り組んでまいります。

JBCF Team =セービング・山口県自転車競技連盟=

登録選手の募集について

JBCF Team セービング・山口県自転車競技連盟では、ともに活動する新たな選手を募集しています。チーム練習やJBCF主催のJエリートツアーへの参戦、県内外で開催されるサイクルイベントの運営協力など、さまざまな活動を通じて、競技力の向上を目指しています。

また、レースで結果を追求するだけでなく、安全な走行マナーや交通ルールの遵守、チームの一員としての責任ある行動も大切にしています。

限られた時間の中でも自転車競技に真摯に取り組み、仲間とともに成長していきたい方のご参加をお待ちしています。

一般賛助会員	年会費20,000円
優待賛助会員	年会費30,000円
サイクルスポーツクラブ会員(ジュニアクラブを含む)	年会費40,000円
JBCF登録チーム会員	年会費50,000円

求められる選手の人物像について

限られた時間の中でも、自転車競技に真摯に向き合い、競技力の向上を目指して継続的に努力できる方

チームが定める主要レースや活動に積極的に参加し、チームの一員として責任ある行動ができる方

JCF(日本自転車競技連盟)およびJBCF(全日本実業団自転車競技連盟)に登録し、登録レーサーとして活動できる方

自らの成長を求め、仲間とともに高め合いながら、ロードレースに真剣に取り組みたい方のご応募をお待ちしています。

チームへのお問い合わせ

チーム代表 棟久 090-5374-8498

山口県ジュニアスポーツサイクルスポーツクラブ

ジュニア選手の育成

山口県自転車競技連盟では、2021年4月に、2004年創立の「山口県ジュニアサイクルスポーツクラブ」と活動を一体化し、ジュニア世代から一般・シニア層まで、幅広い世代が自転車競技に親しみ、成長できる環境づくりに取り組んでいます。ジュニア選手の育成においては、競技力の向上だけでなく、交通ルールや安全走行、仲間とともに取り組む姿勢を大切に、将来にわたり自転車競技を継続できる人材の育成を目指しています。

また、JBCFをはじめとする各種大会への参加や、県内で開催されるサイクルイベントの運営協力を通じて、地域スポーツの振興、サイクルスポーツの普及、競技者の育成・強化に取り組んでいます。

今後も、山口県内における自転車競技の裾野を広げるとともに、地域に根ざしたサイクルスポーツ文化の発展に貢献してまいります。



お問い合わせ

代表 白川 080-3183-7158

交通安全教育の推進

自転車“ヘルメット着用”努力義務化に向けた取り組み

2023年4月の道路交通法改正により、自転車に乗るすべての方を対象に、乗車用ヘルメットの着用が努力義務となりました。現在もこの取扱いが継続しており、年齢を問わず、日常の買い物、通勤・通学、サイクリングなど、あらゆる場面でヘルメットの着用が推奨されています。

また、2026年4月からは、自転車の交通違反に対して交通反則通告制度、いわゆる「青切符」制度が導入され、自転車利用者にもこれまで以上に交通ルールの遵守が求められる状況となっています。なお、ヘルメットの未着用自体は反則金の対象ではありませんが、交通事故時の頭部損傷を防ぐためにも、ヘルメットの正しい着用は極めて重要です。

【道路交通法第63条の11(抜粋)】

自転車を運転する者は、乗車用ヘルメットをかぶるよう努めなければなりません。また、自転車に同乗させる者にも、乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければなりません。

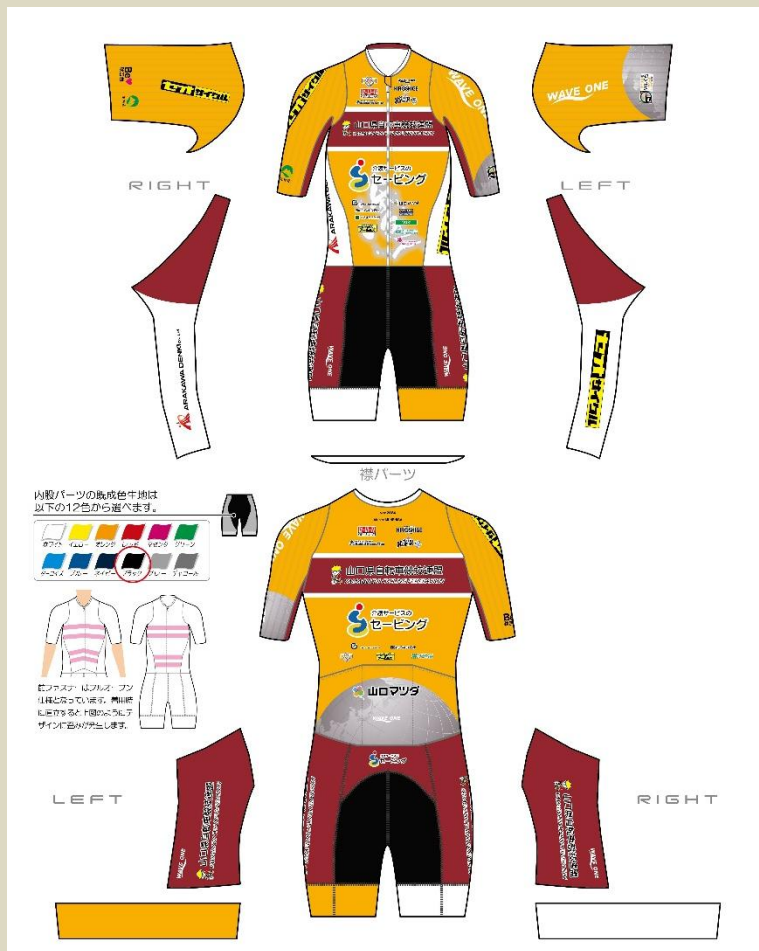
山口県自転車競技連盟では、こうした制度改正や社会情勢を踏まえ、小学校等での自転車安全講習、ヘルメットの正しい着用方法の啓発、通勤・業務等で自転車を利用する企業向けの安全講習など、幅広い世代と場面に対応した交通安全教育に取り組んでいます。

今後も、競技団体としての専門性を活かしながら、地域社会の安全向上と交通事故防止に貢献するため、ヘルメット着用の普及啓発と自転車利用者の交通安全意識の向上に努めてまいります。

JBCF Team Wear & Jr Team Wear

チームジャージ

JBCF登録チーム セービング・山口県自転車競技連盟



主催事業等



きらら浜サイクルミーティング(山口市)
山口シクロクロスシリーズ(美祢市・下関市・山口市)
JBCF大星山ヒルクライム(平生町)
JBCFしゅうなんクリテリウム(周南市)
国民スポーツ大会・日本スポーツマスターズ選考会(防府市)
JBCFしものせきクリテリウム(下関市)
西日本地域自転車競技オムニウム大会(防府市)



パートナーシッププログラム

■パートナーシッププログラム

山口県自転車競技連盟のパートナーシッププログラムは、サイクルスポーツの普及・発展、地域の子どもたちや次世代競技者の育成、そして自転車を通じた地域社会の活性化を目指す取り組みです。現在、全国的に少子化や学校における働き方改革を背景として、学校部活動のあり方が大きく見直され、部活動改革や地域展開、地域クラブ活動の推進が進められています。山口県内においても、学校・行政・地域スポーツ団体・民間事業者等が連携し、子どもたちが継続してスポーツに親しむことができる環境づくりが、これまで以上に重要となっています。

私たちは、競技団体としての専門性や大会運営、競技者育成、安全講習等の経験を活かし、学校や地域、関係者の皆さまの声に丁寧に耳を傾けながら、地域に根ざしたサイクルスポーツ環境の整備を支援してまいります。企業・団体の皆様には、このパートナーシップを通じて、社会貢献活動、商品・サービスのプロモーション、次世代育成への参画、地域・行政・教育現場との持続的な関係構築など、さまざまな形で企業価値の向上やブランドイメージの強化につながる機会をご提供します。協賛内容や特典については、貴社のご意向や事業内容に応じて柔軟に設計いたします。サイクルスポーツを通じて、地域の未来を支え、新たな価値をともに創出していくパートナーとして、ぜひご参画をご検討ください。

■お問合せ

yamaguchi98_cf@yahoo.co.jp

山口県自転車競技連盟

担当：

棟久 090-5374-8498

森岡 090-4808-4747



広報活動について

- 一般・地元メディアへの露出
- 自転車競技連盟公式ホームページへの掲載
- Facebookへの掲載
- ポスターの掲出
- 自転車専門メディアへの記事露出(雑誌・Web)



表彰バックボードのイメージ



サイクル県やまぐちプロジェクトへの露出



露 出 展 開

シケイン



スタートフィニッシュゲート



物品提供型



出 店

これまでの実績(Web・SNS)



今 後 の 展 開

山口県の自転車スポーツは、2011年の「おいでませ！山口国体」をきっかけに、秋吉台カルストロードレースなど地域を代表する大会をレガシーとして継続し、サイクル県やまぐちプロジェクトやジュニア育成の取り組みを通じて、確実にその裾野と夢を広げてきました。そして今、山口から全国、そして世界へと舞台を広げる新たな可能性が生まれています。

・UCI国際大会のレースの開催も視野に入れ検討中

世界基準の自転車競技大会を山口で実現するべく、関係機関と連携しながら調整・検討を進めています。もし実現すれば、国内外からの注目や交流人口の増加が期待されます。

・全日本シクロクロス選手権大会の山口開催を検討

山口きらら博記念公園を会場候補とし、日本最高峰の大会の開催を目指しています。これにより、地域に新たな感動と賑わいをもたらします。

・ジュニア世代の増加と育成強化

地域の子どもたちが自転車を通じて夢に挑戦できる環境づくりも着実に進んでいます。未来のトップアスリートがここ山口から羽ばたいていくことを目指しています。

こうした活動は、スポーツの枠を超え、地域のブランド力や人材育成、健康、観光、産業振興など、幅広い価値を生み出しています。協賛を通じて——全国・世界規模のPRや露出の機会地域貢献・次世代支援というCSR活動の強化企業ブランドのイメージアップ地域・スポーツを舞台とした新たなネットワークやビジネスチャンスといった“企業としての新たな価値創造と未来への投資”が可能です。



自転車を利用したSDGsへの取り組み

「SDGs(持続可能な開発目標)」は、2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年までの15年間で達成するために掲げた国際目標です。

近年では、新聞やテレビ、学校の授業や職場などさまざまな場面で「SDGs」という言葉を耳にする機会が増えており、日本国内でも広く認知されつつあります。山口県自転車競技連盟でも、このSDGsの趣旨に賛同し、以下のような形で取り組みを進めています。

・健康増進・福祉の推進(目標3)

自転車競技やサイクリイベントを通じて、県民の健康づくりや生きがいづくり、世代を超えた交流の促進に貢献しています。

・質の高い教育の推進(目標4)

ジュニア世代の育成や、学校・地域連携によるスポーツ教育、交通安全啓発活動を通じて、子どもたちの健全な成長と学びの機会を提供しています。

・住み続けられるまちづくり(目標11)

サイクルスポーツを軸とした地域活性化や、持続可能な観光・交流人口の拡大に取り組み、地域社会全体の発展に貢献しています。

・パートナーシップの強化(目標17)

行政・学校・企業・地域と連携し、多様な主体と協力して持続可能な社会の実現を目指しています。

今後もSDGsの理念を大切にしながら、スポーツを通じた「持続可能な地域づくり」や「誰もが活躍できる社会」の実現に向けて、積極的に取り組んでまいります。



JAPAN SDGs Action Platform

自転車を利用したSDGsへの取り組み

SDGs(持続可能な開発目標)とは、“2030年までに達成すべき17の目標”

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



自転車を利用したSDGsへの取り組み

私たちは、自転車イベントの企画・開発を通じてCO₂削減に取り組むとともに、自転車利用の推進によるより良い未来の実現を目指しています。

- ・通勤・通学における自転車利用率の向上を目指した自転車環境の整備
- ・さまざまな自転車インフラの開発を通じて、自転車が活用しやすい街づくりの推進
- ・地域や企業と連携した自転車イベントの実施
- ・SDGsに取り組む企業とのタイアップによる、自転車を活用した環境保全活動や企画提案
- ・自転車ラックの設置など、自転車を利用しやすい環境整備

これらの取り組みを通じて、持続可能な社会の実現と地域の環境価値の向上に貢献しています。

